



contents

- p1 特集1 プレイワーカー座談会
～いま、プレイワーカーが感じていること～
- p4 特集2 私たち、二足のわらじ履いています!
- p6 第7回冒険遊び場づくり全国研究集会の
分科会テーマ等アイデア募集!
- p7 みどりのやねから
- p8 地域発!! 栃木県栃木市
—ねずみもちパーク—

特集1 プレイワーカー座談会

いま、 プレイワーカーが 感じて いること。

ある日誰かが気がついた。

「N遊Sってプレイワーカーの特集やらないよね?」

あれ、そうだったっけ? ちょっと前まで「こちらプレーリーダー研究所」

なんて連載もあったし、結構発信してると思ってたけど、

そ一言われれば、特集は案外やってないかも…。

とゆーワケで、各地で活躍するイキの良いワーカーたちの、座談会を開きました!

遊びの最前線に立つ彼らの思いをお聞きください!

【参加プレイワーカー】(50音順)

- 上田真利那(まりな) NPO 法人あそびっこネット
ワーク・東京都練馬区
- 高橋利道(トト) フリーランス
- 根岸基子(みなみ) にしなりプレーパークプロ
ジェクト:大阪府大阪市
- 半田裕(はろはろ) NPO ちゃいるどふっど・長
野県諏訪郡原村
- 森川和加子(わか) せたがや子どもワカモノ
ねっと・東京都世田谷区

【N遊S編集委員】

- アタル! NPO 法人プレーパークセ
たがや・東京都世田谷区
- 谷居早智世(たにー) 日本冒険遊び場づくり協会理事

らしいんだ? みたいな話をしたら、行政も地域の人も「そういう場所は必要だね」みたいに言ってくれて、それで出来た。

全員: 素晴らしいねえ。

半田: 設計とか、利用規約とかも高校生たちでつくって、お金は全部行政から。今も行政の直営です。誰が来てもいいし、ゴロゴロできたり、バンドの練習ができたり…。僕はそこの職員として、屋内と屋外の違いはあるけれど、プレイワーカーとほぼ同じようなことをしてる。つまり、来てる子たちの「やりたい」を応援するっていう感じかな。

高校生の時、居場所をつくった。

N遊S: まず自己紹介からいきましょう。本日 Skype 参加のはろはろから、どうぞ!

半田: 協会の長野県地域運営委員やっています。普段は、中高生の居場所で働いています。最初、横浜の「NPO 法人横浜にプレイパークを創ろうネットワーク」(以下 YPC: 横浜県神奈川市) で 2 年、プレイワーカー修行をして、地元・長野に帰ってきました。今は 2 カ月に 1 度ぐらいのペースで、県内のいろんな遊び場を回ってプレイワーカーをやっています。それと、自分の地元で冒険遊び場を開くための NPO を立ち上げて、周辺の行政や住民の人たちに働きかけてもいます。と言うか、今はそんな風に「遊び場やりましょう」と動いてる時間の方が多いかな。

N遊S: 中高生の居場所って、どういうものなの?

半田: 地元・茅野市の駅ビルにある「CHUKO らんどチノチノ」っていう施設で、僕が高校生の時に中高生の仲間と作ったんだよね。

N遊S: え? どういうこと?

半田: 高校生の頃、茅野市の高校生フォーラムに出たのがきっかけでね。茅野って田舎だからカラオケ BOX とかゲーセンとか、高校生が集まるような場所もなくて、しょうがなく駅前にはいたりすると、大人たちから白い目で見られる。俺たちどこにいた



ト
高橋：その職員ってことは、準公務員？

ト
半田：任期付職員であと2年間。だから、それが終わったら自分のNPOの活動に本腰を入れようと思ってる。

現場以外の可能性を求めて。

ト
高橋：プレーリーダーと名乗り出して13年。有償・無償・常勤・非常勤いろいろな形でやってきて、この4月から個人事業主になって完全にフリーランスになりました。

大学院生の時に冒険遊び場を知って、第2回の

ト
※全国集会で「プレーリーダーがやりたいです」ってアピールしたら、片倉うさぎ山プレイパーク(神奈川県横浜市)が声かけてくれて、それから横浜を中心に全国のいろんな現場を回ってました。大学院卒業してから、うさぎ山に押しかけで(笑)プレーリーダーになったんだけど、その後、実家の事情で地元の大阪に戻ることに。当時の関西は、プレイワーカーでは食えなかったの、サラリーマンになり、建設コンサルタントや教育コンサルタントを経験。5年ほどして、やっぱり遊び場をやりたい、と横浜に戻ってきてYPCで3年働きました。横浜に戻ってからは、プレイワーカーとしてどうやって生きていくかを、ずっと考えてたんだけど、自分は最終的には現場よりも、どうやったら子どもが、もっとイキイキできる社会になるか?ってことをやりたいと思った。で、当時ちょうど横浜で全国集会があったので、その事務局をやったり、YPCの組織強化プログラムの事務局



ト

局をやるなどして、現場以外の経験を意識的に積んできました。

この「現場以外の可能性」をさらに探るために、YPCを辞めて中間支援のNPO法人の職員になって、そこでまた3年。その間、休みの日には常設じゃない遊び場のワーカーや講演に呼ばれたり、遊び場とつながりつつ動きました。独立したこの4月からはTOKYO PLAYで東京都内で道遊びを広げるプロジェクトを担当しつつ、引き続き中間支援のNPOでまちづくり系のプロジェクトも担当。それ以外の時間で遊び場にワーカーとして入ったり、個人的にもいろいろ動いています。

※全国集会：冒険遊び場づくり全国研究集会(以下、同)

激動の5年間を過ごして。

ト
上田：私は、練馬のあそびっこネットワーク(以下あそびっこ)で、プレイワーカーを始めて5年目になります。

ト
上田：まだ5年目だったんだ！激動の5年だったよね。

ト
上田：ちょうど団体が成長期に入ったタイミングと重なって、それはもう…(笑)。私が働き始めた頃のあそびっこは、光が丘で冒険遊び場をやってるだけの団体で、法人化したばかり。区から補助事業として補助金をもらうようになった

関係で月1で近所の公園に出張を始めた。みたいな段階。練馬区全土に遊びを広げるために、毎年出張先を試行錯誤しながらどんどん増やしていった。土日に月1の現場を複数やってた年もあったし、加えて水曜放課後に月1を4カ所回り続けたり、週1を3カ所限定で4カ所やる年もあったり…。

ト
転機は一昨年。反響の多かった平日午前中のちびっこ向けプレーパークの時間を、屋外版の子育てひろば事業「おひさまびよびよ」として区の事業としてやりましようって言ってきて、回数も場所も増やしてほしいってなった。こちらも少しずつ増やして、週1~2回開く現場が去年は4カ所、今年は6カ所。

全員：ひえ～

ト
上田：それとは別に、区のみどり推進課っていう部署が「こどもの森」というのをやりたいって話があって、試行期間にお手伝いしてました。それもちょうど昨年プロポーザルがあって、企業さんとJVを組んで、なんとか取れたんです。で、週7の現場がガツンと増えた(笑)。

ト
全員：うわ～!

ト
上田：一昨年まで、プレーワーカーは私1人の年もあったし、非常勤のプレーワーカーと2人とか。そんな体制だったのに、一気に常勤5人、非常勤めっちゃいるみたいな体制に(笑)。

ト
全員：爆笑

ト
上田：だから去年は、急に団体も大きくなって、どの事業もどうやる?

で、てんやわんや。屋外版子育てひろばも、プレーパークもといて必ず現場に出て必死でした。今年、私はまた新たなステップということで、こどもの森の常駐スタッフをやり始めたところ



まりな

辞めたはずなのに、またプレイワーカーになっていた。

ト
みなみ 根岸：私は、NPO法人プレーパークせたがや(以下ふれせた)で6年間、プレイワーカーとして勤めていました。で、そこを辞めると決めた冬に、大阪市西成区の※「こどもの里」に連れて行ってもらったんです。そしたらそこで、「次年度西成区がプレーパーク事業を立ち上げるんやけど、プレイワーカーいないねん」という話になり、ワーカー辞めたはずなのに、その2カ月後には大阪に引っ越して、またプレイワーカーになって(笑)、今年で3年目です。

※「こどもの里」：国内最大の日雇い労働者のまち・釜ヶ崎で1977年から活動続ける、子どもの遊び場・居場



タタル!



はるはる

所。あまりにも広く深く活動を展開されているので、この短いコラムでは説明できません。現在ドキュメンタリー映画「きとにきたらええやん」が、東京大阪ほかで上映されていますので、興味のある方はぜひそちらをご鑑賞ください！

N遊S：でも、遊び場立ち上がるからって行つたのに、最初大変だったよね？

根岸：最初の年は…、公募

制だった区のプレーパーク事業を、他の団体が受託しちゃった。それぞれに聞かされていた話が違ったり、意思疎通が難しく大変でした。2年目も、次こそはって思ってたのに応募しそこねたり（笑）で、紆余曲折いろいろ。そのなかで、

元々西成区で遊び場をつくりたかった人たちと一緒に、独自で閉校になった小学校で遊び場を始めました。3年目は、その遊び場をやりつつ、4団体でJVを組んで、区のプレーパーク事業に再び応募。そこでやっと受注できました。ちなみに、区の遊び場も、また違う閉校したところでやってるんです。と言うのも、西成区って私がいる3年間で4校も小学校が閉校になったんです。

全員：えーっ！

根岸：少子高齢化がすごく進んでるんですよね。ただ、道で遊ぶ子どももいたり、まちで子どもを見ないって感じではないんですけど…。

若者のこと、乳幼児親子のこと。

森川：アタシは、ぶれせたの駒沢はらっぱプレーパーク（以下、はらっぱ）で9年間、ずっと同じ現場でプレイワーカーとして勤めていました。そこを2014年度いっぱい退職して、今は「せたがや子どもワカモノねっと」という団体を、ぶれせたで同期だったタカ（吉田貴文）と一緒に立ち上げて、若者の居場所づくりをしています。ただ、世田谷ではとにかく場所がなくて、苦戦中（苦笑）。



ワカ

若者に関する活動をしたと思ったのは、ぶれせたでの最後の年、家出をする若者たちがいたんだよね。12月の寒い時に落ち葉に埋もれて寝てた子がいったり、別の子は段ボールで寝てたり。で、「落ち葉とか段ボールって暖かいんだよね」とか言ってる。あと、家族と一緒に住んでるけど、家に誰もいなくてご飯をずっと一人で食べてる子もいて…。ある小学6年生の子は、毎日5千円ずつもらえるんだけど、一緒に食べる人がいないから、毎日毎日遊び場で、「おごるから、ご飯行こうよ？」って声かけてるの。あと逆に、「何日のご飯食べてない」と言う子がいったり…。

そういう出会いが重なったタイミングで、*仁藤夢乃ちゃんの話を書く機会があったの。彼女から、今の若者が巻き込まれてる現状を聞いて、アタシの周りにも同じような状況の子はいっぱいいるなってソツとしたの。例えば家出した彼らも、遊び場関係者の家に泊めてもらったりして、その時はなんとかあったけど、一歩間違えれば悪い大人たちに取り込まれる可能性だってあった。ここはなんとかしたいなって。

※仁藤夢乃：「すべての少女に「衣食住」と「関係性」を」と、「居場所のない高校生」や「搾取の対象になりやすい青少年」の問題を発信するとともに、日常的な関わりを通して少女の支援を行っている。

N遊S：具体的にはどんな活動してるの？

森川：今はとにかく場所がないから、地区会館を借りて夕食会をやったり、何をするわけでもないけど、とにかく集まれる場を開いてる。で、活動をやり始めると、漢字とか計算ができないままハタチを超えてしまって、社会に出にくい若者たちにも結構出会ってきて、学び直してみたいなことも一緒にやってみたり、とにかく若者たちが「困っている」ことがあったら、なんでも一緒にやろうよ、一緒に

考えようよってな感じでやっています。あと、世田谷区が、大学生が運営する中高生の居場所っていうのを始めたんだけど、なかなか難しいみたいで、縁あってそのサポートもやっています。

N遊S：でも、元々は乳幼児親子への関心が強かったよね？

森川：もちろん、そっちもやってる（笑）。遊び場の敷地内にあるお出かけひろばでプレイワーカーやったり、古巣のはらっぱで、アタシが言い出しっぺで立ち上げた乳幼児親子向けのプレーリヤカーがあるんだけど、それも継続してる。あと、まりながいる練馬の屋外版お出かけひろばも一力所担当させてもらってる。そこがすごいことになって、普通の児童公園に、親子合わせて200人くらい来るの。

全員：200人?!（どよめき）

上田：そうそう、ちよい大きめの普通の児童公園なんだけど、毎週200人くらい、保育園のおさんぽも来て多い時は300人…

全員：300?!（絶叫）

上田：秋とか、のべじゃなくて、瞬間人数で200いますね。とにかくその公園のあたりって、遊ばせる場所がホントにないから、お母さんたちの需要が高過ぎるのね。どうやって外で遊ばばいいの？とにかくこの子のために遊

びたいって感じがひしひし伝わってくる。

N遊S：いや～、お母さんも子どもも大変だなあ。そこでどれくらいの頻度で行ってるの？

森川：週1。

全員：うーん、厳しいねえ…。



たに

★

…と、自己紹介が終わったところで、なんと！もはや予定していたページ数が尽きてしまいました。もちろんしゃべれる人たちにお願ひしたんですが、皆さんホントにしゃべり出したら止まりまへんがな（笑）。この後、まだまだイイ話・考えさせられる話がいっぱいですので、対談の続編は次号に掲載します。待てしばし（…って何カ月あるねんって話ですよ、ホントすいません）！

文責：アタル！/レイアウト：中村和郎（ムー）